

1. 派遣者

所属 京都大学大学院薬学研究科 職名 後期博士課程2年 氏名 藤原 裕未

2. 研究集会名

(欧文名) 73rd FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Science 2013

(訳文名) 第73回国際薬剤師・薬学連合会議

3. 派遣期間

2013年 8月31日 ~ 2013年 9月 5日 (6日間)

4. 国際研究集会の概要とその成果 (併せて600字~800字で記載下さい。)

(概要) FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Science は FIP (国際約薬連合) 主催の学会であり、薬剤師、薬学研究者など薬学関係者が集い、講演、研究発表を行う場である。今年度はアイルランド・ダブリンで開催され、3000名を超える参加者が集まり、シンポジウム 59セッション、ポスター発表 683演題、SIG(Special Interest Groups)ミーティング 8分野などで発表、討論が行われた。また、協賛出展企業による展示や YPG (Young Pharmacist Group) によるエクスカージョンといったイベントも開催され、他国の人と交流を深める場も多くあった。

(成果) 本学会の参加者は薬剤師を業とする者が多く、科学の基礎的な研究による発表は少なかった。しかし、科学と実務の両方が重要視されており、それぞれの立場から薬学を考える良い機会となった。私のポスター演題は “Sedative effect of vapor inhalation of essential oils of aromatic natural medicines and its chemical composition” であり、日本で伝統的に用いられてきた香薬類の精油について、マウスへの吸入投与によりその鎮静活性を評価したものである。発表中には質問や意見を頂いたが、英語力が不十分でうまくコミュニケーションを取れない部分があり、悔しく思うとともに勉強の必要性を感じた。Natural Products のセッションでは世界各国の天然物の使用や規制について討論がなされ、私自身はこのようなテーマでのセッションは初めてであったが、興味を感じる事ができた。

今回初めて国際学会に参加し、自分の研究や天然物について考えることができたことに加え、海外の薬剤師の活動や考え方にも触れることができ、とても勉強になった。

5. キーワード (本研究成果のキーワードを最大6つお書き下さい。)

- ① 世界各国での天然物の使用 ② 英語でのコミュニケーション ③ 海外の薬剤師の活動
④ 若年者の積極性

6. 本会からの助成に対する意見・希望等

(意見) この度助成金を頂き、金銭面での負担が軽減し学会に参加することができ、感謝している。国際学会で初めて学ぶことや、刺激を受けることは多くあったので、参加でき本当に良かったと感じる。今後も助成金制度を続けていただきたいと思います。

(希望) 募集要項に記載のある採択決定時期のめどから、内定通知を頂いた時期までの期間が長かったので、募集要項には採否の連絡を頂ける時期を記載いただけると有難い。